

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 592

平成22年11月22日(月曜日)

社 外 重 役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド
 東京本社)東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439
 大阪支社)大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F
 Tel.06-6448-2004 Fax.06-6448-0539

人 事

組織活性化への起爆剤となるか
メンタルヘルス新指標に再注目

ワーク・エンゲイジメントは、10年前アメリカで提唱され、これをベースに02年に測定尺度UWESが開発されたものを指す。従業員や管理者の“心の健康度”を示すメンタルヘルス概念の一つで、仕事で求められる役割(組織の価値)を十分に果たしながら、同時に自己表現(個人の価値に基づく)できていると感じられる状態をいう。その結果、エネルギー、充実感、満足感を生み出すとされる。

10年前といえば、メンタルヘルスの重要性が叫ばれ始め、未然防止のツールとして新職業性ストレス簡易調査票やストレス判定図などが開発され、広く利用されてきた。しかしこの間、産業構造の変化、国際競争、デジタル化など新たなストレス要因が生まれ、心の不調者は増え続け自殺につながっていく。特に近年注目されるのは、「活力ある元気な職場」の視点が欠落していると指摘される点だ。

今、日本企業の多くがまさに“元気がない職場”であり、従業員の心が組織と振幅しあう関係が破綻しかねない危うさがある。組織を活性化するには再び“原点”に戻り、職場内の「資源」を増やすための教育研修活動や職場環境改善活動などが有効という。問題解決スキル、ネガティブな感情への対処スキルなども磨き、エネルギーを呼び戻す責任が企業経営者の責務であろう。ワーク・エンゲイジメントは「バーンアウト」(燃え尽き症候群)の対概念として提唱されたことを忘れてはいけない。

税務会計

法人1件の申告漏れ額は過去最高
「バー・クラブ」がワースト1位

国税庁が発表した今年6月までの1年間(2009事務年度)における法人税調査事績によると、不正計算が想定されるなど調査必要度の高い13万9千法人(前年度比4.5%減)を実地調査した結果、71.9%にあたる10万件(同6.0%減)から前年度に比べ54.6%増の総額2兆493億円の申告漏れを見つけ、3,799億円(同16.1%増)を追徴した。

申告漏れ額は、なかなか改善されない経済状況、景気動向による法人所得の低迷を反映して、調査件数や申告漏れ件数が減少しているため、前年度まで2年連続の減少となっていた。しかし、大口・悪質な不正計算が予想される法人に加え、国際取引を行っている法人対しても深度ある調査が積極的に行われたこともあり、一転して大幅増加となった。これにより、1件当たりの申告漏れ所得金額も前年度に比べ61.8%増の500万円以上の増加となる1,474万円で過去最高を記録している。

また、調査した21.0%にあたる2万9千件が故意に所得を偽装・隠ぺいする等の不正を行っており、その不正脱漏所得は3.5%減の4,047億円だった。1件あたりの不正脱漏所得は前年度比3.5%増の1,385万円と2年連続で増加した。

不正を業種別にみると、不正発見割合の高い10業種では、「バー・クラブ」が57.9%で8年連続のワースト1位となった。次いでこれも常連の「パチンコ」(48.7%)が続き、この2業種は7年連続でワースト1、2位となっている。

今週のキーワード

ワーク・
エンゲイジメント

2000年にボストン大学のカーン教授が提唱し、その測定で、ショーフェリ教授(オランダ)らが考案したUWES尺度が用いられる。これは活力・熱意(貢献)・没頭の三つの要因に関する17項目の質問から成る調査票であり、日本語版は、島津明人准教授(東京大学医学部)らによって開発された。06年には富士通ソフトと東京大学が産学共同でツールを開発し、人事担当者等に行き渡った。新職業性ストレス簡易調査票(アンケート)は厚労省が毎年行う研究事業。